

# 関西在住受賞者の集い

## 講演とリレートークで盛況



関西在住受賞者の集いが2017年12月17日神仙閣大阪店で行われました。2015年に開催された関東在住受賞者の集いに続き催されたものです。

今回の集いは、当財団受賞者の曹基哲・お茶の水女子大学大学院教授、文鐘聲・畿央大学大学院准教授と金賢得・京都大学大学院助教の発起により企画されました。

昨年は金萬有科学技術振興会として事業がスタートした時から40周年となる年であり、また一般財団法人成和記念財団への移行・名称変更から4年を迎え、受賞者間の連係・親睦の契機をつくりたい、さらに当財団の科学振興事業の歴史と現況を紹介し、意見交換を広く行いたい、との趣旨により開催する事になりました。

関西在住の受賞者で現役世代を中心に、連絡可能な方々にお集まり頂きました。財団からは東京より金光宇理事長も同席。司会進行の文鐘聲氏から、仕事などの都合でやむなく欠席となった方々から、趣旨に賛同しつつご出席の皆さんによりしくお伝えくださいとの連絡が来ていることも報告されました。

金光宇理事長が、受賞者の皆さんが科学技術の研究で大いなる活躍をされていることから、この財団事業の本来の貴重な意義を再確認出来たととてもうれしく思いますとあいさつ。

当財団の受賞者で役員として長く関わって来られた、曹基哲理事から、当財団の歴史と現況についてスライドを用いた講演がありました。



懇親会では長く選考委員として貢献してこられ、今年の四月からは長浜バイオ大学学長に就任した蔡晃植先生のご発声で、互いの健闘を称えあい祝杯をあげました。

出席者のリレートークでは、近況や、意見、提案など自由に発言がやり取りされました。

金大貴・大阪市立大学教授、文世一・京都大学大学院教授、鄭容武・広島大学大学院准教授、李秀榮・理研神戸研究所上級研究員、沈用球・大阪府立大学准教授、金寛・大阪大学元助教、さらに任龍燾・神戸大学大学院所属日本学術振興会特別研究員（PD）、趙崇貴・奈良先端科学技術大学院大学博士後期課程1年生も発言。

「一人じゃない、応援してくれる人たちがいる、との思いで頑張ることが出来た」「苦しい時、この財団で頂いた助成金でどれだけ助けられ、有り難かったことか」「恩を忘れずにこれからも精進していきたい」「財団を通して形成された人的な繋がりも自分の研究生活において貴重な財産となっている」…受賞時の思い出話から先輩の忠告や、楽しいエピソードなどで予定時間が過ぎるのも忘れるほど盛り上がりました。

関西若手勉強会について金賢得代表が紹介。出席者たちは、この勉強会を20年前に発足した時のことを楽しく振り返りながら、次代を担う新世代研究者を後押しする場として盛り立てていこうと話していました。